

著者・北川なつさんからのメッセージ

実母の心の病と突然の別れ、愛犬との別れ…

そして日本中にある百人百様の介護の日常を

元介護職のマンガ家が切なくも温かいタッチで描く短編集。

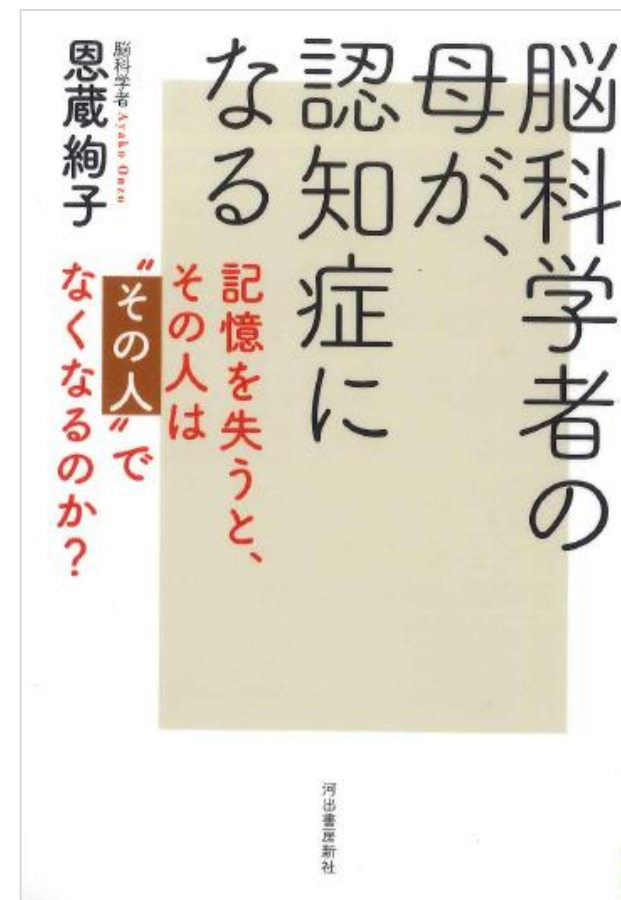


著書

『親のパンツに名前を書くととき』ペこなつ堂/発行 2020年 頸城所蔵

著者・恩蔵絢子さんからのメッセージ

認知症の母親と暮らしてきて、認知症になっても
私たちの「その人らしさ」は残る、と信じられるように
なりました。



著書

『脳科学者の母が、認知症になる』 河出書房新社/発行 2018年 高田所蔵

著者・大城勝史さんからのメッセージ

認知症と診断されたとき、絶望から自分の全てを否定しました。そんな自分を少しずつ受け入れ今は素直に家族に甘え、支えられながら生きています。



著書

『認知症の私は「記憶より記録」』 沖縄タイムス社/発行 2017年 直江津所蔵

著者・丹野智文さんからのメッセージ

私は今まで 300 人を超える当事者とゆっくり話をしてきました。この本は今まで認知症と診断された当事者が社会の間違った対応から生きづらさを抱えてきた事を書いてあります。

当事者の工夫をしている事も書いてありますので、みなさんが認知症となった時の備えとなる一冊です。



著書

『認知症の私から見える社会』 講談社/発行 2021年9月



著者・樋口直美さんからのメッセージ

誤作動する脳に、何が起こる？

世界はどうなる？

誰の脳にも誤作動する仕組みがある!?

不思議と驚きに満ちた脳の世界へ Go!



著書

『誤作動する脳』 医学書院/発行 2020年 頸城所蔵

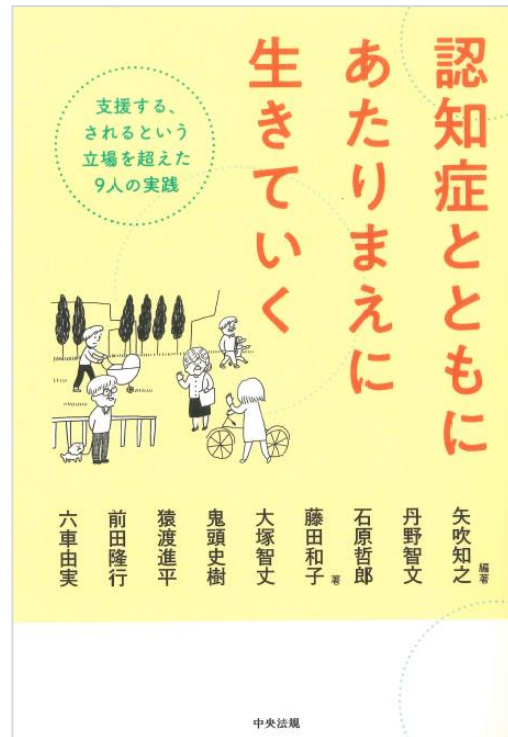
著者・丹野智文さんからのメッセージ

私が仙台で行っている認知症と診断された当事者が活躍している活動を紹介しています。認知症になったからこそ伝えられることがたくさんある事を伝えたくて書きました。



著者・鬼頭史樹さんからのメッセージ

この本は「認知症の本」ではありません。「あたりまえ」とは何かを考え、「ともに生きていく」ということを考える本です。



著者・藤田和子さんからのメッセージ

認知症とともにあたりまえに生きてきた本人として、誰もがそう生きられる社会を創り出すため、これからも実践を積み重ねたいと思っています。



著者・矢吹知之さんからのメッセージ

行動には感情がとれない、心動かされたとき行動に移します。行動を起こすと迷いと葛藤が生じます。そんな時の前に歩むヒントになる本だと思います。認知症に関心のあるすべての方に手にとっていただきたいと思います。



著書 『認知症とともにあたりまえに生きていく』

矢吹知之/ほか編著 中央法規出版/発行 2021年 頸城所蔵